

平成27年 3月 19日

(あて先) 熊本市長

住所 熊本市東区

団体名 with women

代表者 職名 代表 氏名 竹嵩 由美



熊本市市民公益活動支援助成金実績報告書

平成26年度4月1日付け指令(市協)第1-12号により、平成26年度熊本市市民公益活動支援助成金の交付を受けました事業の実績について、下記のとおり報告します。

記

1 助成事業名

分野指定助成(まちづくりや地域の安全の推進を図る活動)

産後リハビリテーション概念普及による生活の質(QOL)向上への取り組み

2 助成事業の実施期間

平成26年4月1日 ～ 平成27年3月5日

3 助成事業の内容

年間6回の講習会を軸にした一般および医療従事者への産後リハビリテーション概念普及。そこでの、生活の質の向上のための日常生活改善の提案を行っていく。

4 事業の成果

一般向けの講習では新たな集客へとつながる講座を開催でき、普及へとつながった。また講習内の日常生活改善のためのトレーニングの提案は好評をいただいている。医療従事者向けでは、チームアプローチという観点から展開し、幅広い職種からの参加をいただいたとともにこの分野の必要性・重要性を参加者とともに再確認することができた。

5 助成事業の実施状況

- (1) 事業収支決算書(様式第16号)
- (2) 事業の経過又は成果を証する書類等
- (3) その他参考となる資料

事業報告書

	平成26年度
事業名	産後リハビリテーション概念普及による 生活の質 (QOL) 向上への取り組み
目的	現状と必要性 熊本県の出生率は全国4位 (2011年統計より熊本県8.9%、全国平均8.3%) を誇る。しかしながら、産後の母親側のケアはいまだ不十分であり、尿漏れや腰痛などは多くの女性が経験。深刻なケースでは骨盤臓器脱があるが、さまざまな理由から重症化して病院を受診するという現状がある。それらは生活の質に関わることから、<u>産前より母親側のケアを充実させることで、母親の不安や悩みを軽減し心身ともに安定した状態で子育てが行えるような対策が急務と考える。</u> 目的 産後～高齢女性 (*産後何年経過しても「産後」という捉え方) のマイナートラブルの予防と改善、セルフケアの推進を目的とする。活動メンバーの専門性と、同じ女性という (妊娠、出産、子育てを経験中で同じ思いや悩み持つ) 立場を活かし、産前産後リハビリテーション概念の発信、推進を図る。そのことが生活の質 (QOL) 向上へと繋がり、女性が過ごしやすい生活環境を整えることを目的とする。 この活動は全国的に見ても珍しいため熊本からの情報発信は大きい。昨年度大変好評を得た講習の継続による更なる普及において女性の生活の質 (QOL) 向上・社会進出の一助となるべく活動を行っていく。
事業期間	平成26年 4月 ～ 平成27年 3月
具体的な事業内容	一般参加者、医療従事者との現状と意識の共有 ●H26年11月: 「いい夫婦の日」; 「パパを更に素敵に変身させちゃう☆魔法のファッション選びのコツ!」; 「パートナー、子供をやる気にさせる魔法の言葉、ベブトーク」 参加2組 ●H27年3月: 「産後の日」ベビーサイン講習、仏国子育て事情講習、子宮頸がん啓発講習、医療相談ブースなど。骨盤底筋群のケアやトレーニング、40代女性の取り込み、参加40組 専門分野での講習会 開催を軸とした普及 ↓参加15組 ●H26年8月: スポーツキッズ向け講習・同時開催「ママたちの体力測定会」(大学教員) ●H26年9月: 泌尿器科医による講習会 (見守り託児の要素を取り入れた子ども向けイベント同時開催) 参加8組 医療従事者への普及 ●H26年6月: 理学療法士による (関東在住 「院内産後ケア」 立ち上げ功績者) による「産前産後女性の評価・リスク管理・治療」セミナー 参加40名 ●H27年3月: 開業助産師による「母親学級での誕生学と産前産後のチームアプローチに必要なリスク管理について」 参加35名
活動場所	熊本市内: あいぽーと (中央区大江)、Ceas Color (シーズカラー) (東区東町)
期待される効果	●産後間もない時期から長期にわたって、出産経験のある女性全般を対象に身体の悩みの改善、必要に応じた専門分野への的確な介入の橋渡しを行うことが可能となった。 ●子育て環境が整い、母親自身の心身をもいたわることで生活の質が向上し、また子供が欲しいと思える環境作りへと繋がった。 ●広く活動を行い、日常の現場の声を直接聞くことで、医療従事者への情報提供と賛同者の獲得に繋がった (開業助産師、熊本保健科学大学との連携強化)

事業収支決算書

項 目		金 額 (円)	内 訳
収 入	自己資金	180,000	会費 4000 円×20 名 (医療従事者向け・在関東講師)、 2500 円×22 名 (医療従事者向け講習・在熊講師) 1000 円×45 名 (一般向け講習)
	市民公益活動支援助成金	100,000	当該事業助成金交付決定額
	その他の補助金・助成金		
	寄附金・協賛金		
	その他	598	個人からの手出し金
	計	280,598	
支 出	助成対象経費	人件費	
		報償費	120,000 2 万円×4 名、1 万円×2 名 5000 円×4 名
		役務費	61,092 印刷代 チラシ外部印刷 33174 円 (A4 両面・カラー 計 4500 部)、 講習時配布資料 (コピー機使用 699 円) インク代・用紙代 27219 円 (チラシ・配布資料プリンター使用分)
		使用料・賃借料	
		消耗品費	7,179 事務用品 (ファイル・のり・テープ・封筒など)
		旅費	47,000 東京より 1 万円、大学ゼミ生 (20 名分) 1 万円 1000 円×27 名分
		備品購入費	21,509 マット約 3500 円 (購入店舗によって差) ×6 枚
		その他	
		小計	256,780
	助成対象外経費	飲食費	23,818 講師スタッフ飲み物 (4132)、お茶菓子 1100 お弁当・昼食代 (18586)
		小計	23,818
	計	280,598	